

科目名	財務会計ⅠA									
科目名(英)										
単位数	5単位		時間数		80時間		担当者		藤本 清貴	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	経理科2年									
授業概要	日商簿記検定1級で学ぶ内容は、極めて高度な商業簿記・会計学・工業簿記・原価計算を修得し、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析を行うことが出来るようになる。									
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5							
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る				
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る				
テキスト・教材 参考図書	・ネットスクール出版 日商簿記1級とおる商業簿記・会計学テキスト・問題集									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-4	簿記一巡の手続					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	5-8	損益計算書・貸借対照表の構造					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	9-12	資産会計総論・現金預金					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	13-14	有価証券 金銭債権と貸倒引当金					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	15	商品の評価								
	16-19	有形固定資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	20-24	繰延資産 減損会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	25-29	負債会計(資産除去債務・リース) 退職給付会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	30	社債 純資産会計1(配当、自己株式)								
	31-34	外貨建換算会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	35-38	企業結合					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	39	連結会計								
	40	持分法								
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期テスト	◎	◎				60%			
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%			
	出席状況・授業態度				◎		20%			
履修上の注意										

科目名	管理会計 I A											
科目名(英)												
単位数	5単位		時間数		80時間		担当者		新田 覚			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	この講義は、日商簿記検定2級レベルが理解できている学生を対象としています。全経上級・日商1級等の高度の資格試験に合格する実力を身につけさせる授業を行う。主に製造業の経営活動を記録・計算し、その結果を財務諸表によって報告・分析する知識を習得する。講義では、すべての学生が簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく講義するとともに、数多くの問題演習を行ってもらう。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					原価計算・財務分析用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				予算管理の一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				日商簿記1級の全般(財務分析が中心)の問題が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	・ネットスクール出版 日商簿記1級とおる工業簿記・原価計算 テキスト・トレーニング											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-4	工業簿記・原価計算と製品原価										
	5-8	費目別計算の基本					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-12	部門別計算の基本					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-14	個別原価計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15	総合原価計算の基本					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	16-19	総合原価計算における仕損・減損1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	20-24	総合原価計算における仕損・減損2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	25-29	工程別総合原価計算1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	30	工程別総合原価計算2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	31-34	組別・等級別総合原価計算1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	35-38	組別・等級別総合原価計算2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	39	連産品と副産物1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	40	連産品と副産物2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	財務会計 I B										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		70時間		担当者		藤本 清貴		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	経理科2年										
授業概要	日商簿記検定1級で学ぶ内容は、極めて高度な商業簿記・会計学・工業簿記・原価計算を修得し、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析を行うことが出来るようになる。										
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5								
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る					
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る					
テキスト・教材 参考図書	・ネットスクール出版 日商簿記1級とおる商業簿記・会計学テキスト・問題集										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-4	税効果会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	5-8	会計の基本ルール					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	9-12	損益計算書の基本ルール					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	13-14	純資産会計2(新株予約権)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15	デリバティブ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	16-19	会計上の変更および誤謬の訂正					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	20-24	商品売買の期中処理					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	25-29	収益認識					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	30	建設業会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	31-34	試用販売					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	35	委託販売					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期テスト	◎		◎						60%	
	宿題・レポート	○		◎				◎		20%	
	出席状況・授業態度							◎		20%	
履修上の注意											

科目名	管理会計 I B											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		70時間		担当者		新田 寛			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	この講義は、日商簿記検定2級レベルが理解できている学生を対象としています。全経上級・日商1級等の高度の資格試験に合格する実力を身につけさせる授業を行う。主に製造業の経営活動を記録・計算し、その結果を財務諸表によって報告・分析する知識を習得する。講義では、すべての学生が簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく講義するとともに、数多くの問題演習を行ってもらう。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					原価計算・財務分析用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				予算管理の一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				日商簿記1級の全般(財務分析が中心)の問題が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	・ネットスクール出版 日商簿記1級とおる工業簿記・原価計算 テキスト・トレーニング											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-4	標準原価計算の基本1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5-8	標準原価計算の基本2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9-12	標準原価計算の応用1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13-14	標準原価計算の応用2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	部門別計算の応用1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	16-19	部門別計算の応用2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	20-24	本社工場会計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	25-29	工業簿記・原価計算と管理会計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	30	CVP分析1					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	31-34	CVP分析2					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	35	CVP分析3					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	日商簿記検定対策 I											
科目名(英)												
単位数	5単位		時間数		80時間		担当者		梶原 英彦			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	過去問題演習を行い、日商簿記検定3級合格を目指す。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る						
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る						
テキスト・教材 参考図書	日商簿記検定模擬試験問題集3級											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	6-10	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-15	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	16-20	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	20-25	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	26-30	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	31-35	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	36-40	日商簿記検定3級過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	確認テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	全経簿記検定対策Ⅰ											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		70時間		担当者		梶原 英彦			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	過去問題演習を行い、全経簿記能力検定1級原価計算・工業簿記合格を目指す。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					原価計算用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				工業簿記記帳の一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				全経簿記1級の全般の内容を理解し、過去問題(原価計算・工業簿記)が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記 過去問題集											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	6-10	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-15	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	16-20	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	20-25	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	26-30	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	31-35	全経簿記能力検定1、2級原価計算・工業簿記過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	簿記総合演習 I											
科目名(英)												
単位数	5単位		時間数		80時間		担当者		梶原 英彦			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	この講義は、日商簿記検定3級レベルが理解できている学生を対象としています。日商2級資格試験に合格することが目標。企業の経営活動を記録・計算し、その結果を財務諸表によって報告する知識を習得する。講義では、過去試験問題の演習を行う。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					会計専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				日商簿記2級の全般の内容を理解し、過去問題が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	日商簿記検定模擬試験問題集2級											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	6-10	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-15	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	16-20	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	20-25	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	26-30	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	31-35	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	36-40	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験			◎								60%
	確認テスト			◎								20%
	宿題・レポート			◎				◎				20%
履修上の注意												

科目名	簿記総合演習Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		70時間		担当者		梶原 英彦		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	経理科2年										
授業概要	この講義は、日商簿記検定3級レベルが理解できている学生を対象としています。日商2級資格試験に合格することが目標。企業の経営活動を記録・計算し、その結果を財務諸表によって報告する知識を習得する。講義では、過去試験問題の演習を行う。										
	iCDタスクコード										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					会計専門用語について学び、意味を説明することができる。					
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。					
		○				日商簿記2級の全般の内容を理解し、過去問題が解答できる。					
テキスト・教材 参考図書	日商簿記検定模擬試験問題集2級										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-10	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11-20	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	21-30	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	31-40	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	41-50	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	51-60	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	61-70	過去問題演習					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期試験			◎						60%	
	確認テスト			◎						20%	
	宿題・レポート			◎				◎		20%	
履修上の注意											

科目名	コンピュータ会計演習 I									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		小林 憲一	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	経理科2年									
授業概要	与えられた証憑をもとに、弥生会計に入力し、貸借対照表、損益計算書が作成できるようになる。 コンピュータ会計の基本的な仕組みを理解し、全経コンピュータ会計能力検定3級取得を目指す。									
	iCDタスクコード									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					証憑から仕訳を作成できる				
		○	○			仕訳をコンピュータ(弥生会計)に入力できる				
	○					入力データをもとに貸借対照表や損益計算書を作成できる				
テキスト・教材 参考図書	コンピュータ会計能力検定試験3級 最新過去問題集									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	証憑→仕訳の解説、弥生会計概説								
	2	証憑→仕訳の演習								
	3	仕訳の入力								
	4	入力済仕訳データを活用する								
	5	入力済会計データを活用する								
	6	コンピュータ会計の基本的仕組みの理解								
	7	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	8	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	9	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	10	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	11	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	12	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	13	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	14	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
	15	コンピュータ会計3級 過去問題演習・解説					過去問題を実施するので復習しておくこと			
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	評価テスト	◎		◎	◎			60%		
	確認テスト	○		○	○			20%		
	出席状況・授業態度					○		20%		
履修上の注意	ワークブックと電卓を必ず持参すること									

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	藤本 清貴
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	経理科2年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
	iCDタスクコード						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを理解することができる。	
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
		○				行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポートを数回実施する (2)授業態度 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナー											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		姫嶋 幸子			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	ビジネスの場で毎日目にする文書の取り扱い方、社内文書・社外文書の作成の仕方、社交文書の書き方、文書における敬語の使い方、メールの文章作成を習得する。											
	iCDタスクコード		SP02.12.4									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				社内文書、社外文書、メールのルールを知り、実際に書くことができる。						
		○				主語・述語を明確にした分かりやすい文章を正しい漢字を使って書くことができる。						
テキスト・教材 参考図書	ビジネス文書検定実問題集、プリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	ビジネス文書とは										
	2	ビジネスコミュニケーション・メール編										
	3~5	表記技能										
	6~8	表現技能										
	9	理解度テスト/解説					理解度テストのための復習					
	10~12	社内文書										
	13~15	社外文書										
	16~19	過去問題										
	20	理解度テスト/解説					理解度テストのための復習					
	評価方法	(1)理解度テストの平均点 (2)授業の中で小テストを適宜実施する。(3)宿題のファイル提出あり。 以上を下記の観点・割合で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
理解度テスト		○		◎								60%
小テスト		○		◎								20%
宿題ファイル				○				◎				20%
履修上の注意												

科目名	教養Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		藤井 裕一			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	就職試験に臨むためのSPI(非言語・言語)の内容を学ぶ。論理的思考を養う数学を主教科、読解力を強化する為の国語を副教科とする。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					非言語能力問題(損益・仕事・鶴亀・速度等)ができる						
	○					言語能力問題(二語関係・文法・語句・長文理解)ができる						
テキスト・教材 参考図書	SPIクリア問題集(成美堂出版)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	損益算(原価、利益、定価の算出)、二語関係										
	2	損益算(原価、利益、定価の算出)、二語関係					損益算の復習をしておく					
	3	仕事算(単位量の捉え方)、二語関係										
	4	仕事算(単位量の捉え方)、文法					仕事算の復習をしておく					
	5	鶴亀算(連立方程式への導入)、文法										
	6	鶴亀算(連立方程式への導入)、語句の意味					鶴亀算の復習をしておく					
	7	速さ・時間・距離(公式の使い方)、語句の意味										
	8	速さ・時間・距離(公式の使い方)、短文の穴埋め					速さ・時間・距離問題の復習をしておく					
	9	場合の数(条件分けの理解)、短文の穴埋め										
	10	確率、文章整序										
	11	グラフの領域(式とグラフの識別)、文章整序										
	12	グラフの領域(式とグラフの識別)、空欄補充					グラフの問題を復習しておく					
	13	図表の読み取り、空欄補充										
	14	新傾向問題(思考力を養う実践的計算)										
	15	新傾向問題(思考力を養う長文読解)										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎										60%
	確認テスト	○										40%
履修上の注意												

科目名	キャリアデザインA											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		藤本 清貴			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	・就職採用試験の為に「履歴書」「エントリーシート」を作成する。 ・就職試験の面接に合格する為に模擬面接を行い、質問の趣旨に沿った的確な受け答えが出来るようになる。 ・ナビサイトを利用したエントリーや申請の方法を学び、受験の流れを確認する。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				志望する業界・職種についての特徴を正しく理解し、志望理由を説明できる。						
	○	○				学んで来た資格や自身の強みについて体系的にまとめ、履歴書を作成できる。						
	○	○	○			面接の手順を理解し、ロールプレイングにおいて立ち居振る舞いを実行できる。						
	○	○				面接において受けた質問に対して的確に受け答えを行える。						
	○	○				ウェブの就職活動ナビサイトを利用し、エントリーや受験手続を実行できる。						
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック(麻生塾)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	就職環境を知ろう①就職活動の流れとスケジュール										
	2	就職環境を知ろう②様々な雇用形態と働き方										
	3	自己分析・他己分析①										
	4	自己分析・他己分析②										
	5	仕事研究①会社の基礎知識					企業研究レポートを作成・提出。					
	6	仕事研究②業界と職種										
	7	自己表現①自己PR作成					自己PR等の課題を作成・提出。					
	8	自己表現②志望職種と志望業種										
	9	ウェブによる就職活動(ナビサイトの活用とエントリー)										
	10	面接試験対策①求職票受付面接について学ぶ										
	11	面接試験対策②面接のマナーと動き										
	12	面接試験対策③グループディスカッション										
	13	面接試験対策④よくある質問の傾向と対策										
	14	面接試験対策⑤ロールプレイング										
	15	面接試験対策⑥課題フィードバック										
評価方法	(1)課題(自己PR・履歴書の作成など)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	履歴書・レポート提出		○		◎						40%	
	面接練習		○		◎		◎				40%	
	授業態度、出席状況						◎				20%	
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。											